

令和6年秋季（9～10月）シラス漁況予報

水産技術センター
 令和6年9月13日

今後の見通しのポイント

秋シラス（9～10月）：前年を下回る

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温（大阪湾、10m層）

本年の大阪湾の水温は、8月を除き、平年並み～やや高めで推移しています（図1）。気象庁による9～11月の西日本における天候見通しでは、平均気温より高い確率が60%、平年並みが30%と予想されていることから、今後の水温は平年並み～高めで推移するものと推測されます。

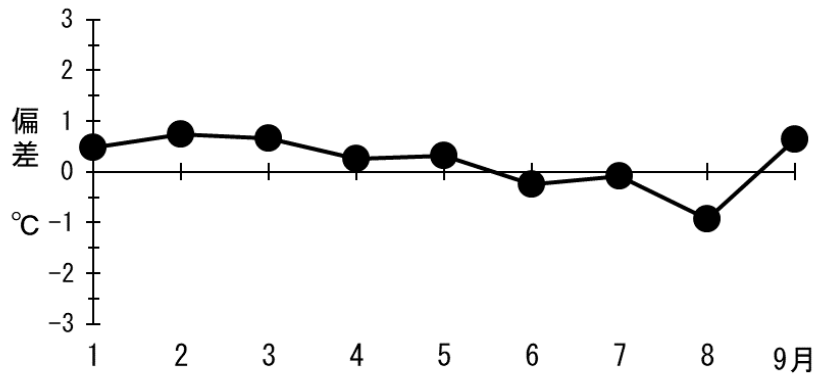


図1 大阪湾の水温平年偏差（10m層、大阪湾20定点平均）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、2017年の8月以降、それまでの接岸傾向から離岸傾向に変化しました。本年も離岸傾向は続いています。9月に入り離岸距離が小さくなっていることから、黒潮が一時的に接岸した可能性があります（表1）。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、秋シラス漁期も、潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離

単位：海里（1海里=1852m）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2021年	88	109	105	106	119	83	101	131	144	155	166	185
2022年	176	156	150	166	174	154	218	158	165	139	145	146
2023年	171	190	188	126	195	191	171	145	145	100	119	104
2024年	93	115	136	121	99	95	85	96	40			

※本年9月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

(2) これまでのカタクチシラスの漁況の推移

大阪府におけるシラス漁は、5月10日から本格的に出漁が開始され、前年同様、5月下旬まで漁獲は低調に推移しました。5月末以降、湾内発生とみられる群の加入がみられましたが、6月末まで前年同時期を下回る漁獲が続きました。シラスの種組成は、5月下旬時点でカタクチシラスが95%以上を占め、5月末以降はほぼカタクチシラスのみとなりました。その後、7月中旬～8月下旬にまとまった漁獲があり、この時期については前年同時期を上回る漁獲となりましたが、8月末以降は漁獲量が減少し、9月に入っても低調な漁獲が続いています。

(3) 8月、9月におけるカタクチイワシ卵、稚仔の出現状況

本年のカタクチイワシ卵は、8月は大阪湾北西部を除く湾全域で、9月は主に大阪湾北東部海域で採集され、8月はプランクトンネット1曳網当たり40粒、9月は18粒でした。これを平年、前年と比較しますと、8月は平年の143%、前年の65%と平年を上回ったものの、前年を下回り、9月は平年の86%、前年の33%で、平年および前年を下回る採集数でした。稚仔の採集数は、8月、9月ともに平年、前年を大きく下回りました。(8月は平年の10%、前年の4%、9月は平年の8%、前年の3%)。

以上のことから、両月の採集数を総合すると、本年8～9月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生状況は、全体として前年を下回る水準であると推定されます(表2、表3、図2)。

表2 カタクチイワシ卵の採集数(本年は速報値)

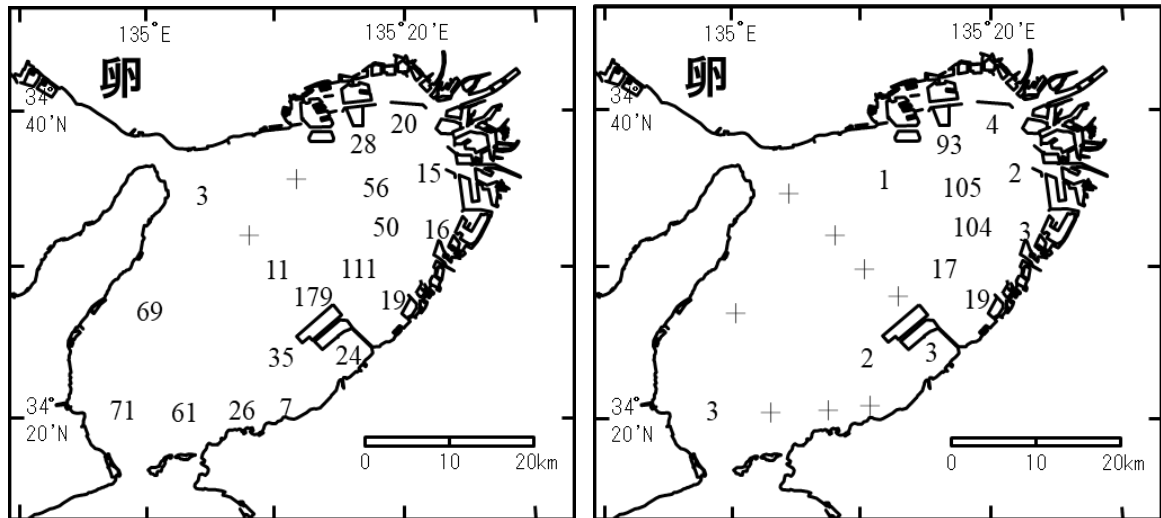
年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	2	40	77	34	28	21	5	2	0.4
過去5年	0	0	0	61	275	250	95	122	52	37	24	2
前年	0	0	0	32	63	105	61	62	54	47	16	0
本年	0	0	0	3	568	476	61	40	18			

平年値 : 1985-2019(35年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)

表3 カタクチイワシ稚仔の採集数(本年は速報値)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	0.1	4	8	6	10	4	1	0.6	0.2
過去5年	0	0	0	0.7	9	47	15	16	6	5	8	1
前年	0	0	0	0.5	6	26	10	28	12	10	12	0.4
本年	0	0	0	0	31	18	2	1	0.3			

平年値 : 1985-2019(35年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(尾)



2024年8月
2024年9月
図2 カタクチイワシ卵の採集数（プランクトンネット1曳網あたり）
※ 図中+は出現なし

2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてからシラスとして漁獲され始めるまで約3週間、主漁獲対象になるまで1ヶ月弱かかります。そのため8、9月の卵稚仔の量と、この間の生き残りが秋シラスの漁獲量に大きく影響します。

本年8、9月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生量は、卵および稚仔の採集状況から全体として前年を下回る水準であると推定されます。さらに、8月末～9月上旬の漁模様や8、9月の稚仔の採集状況などから生き残り条件は昨年に比べて悪い可能性があります。これらのことから、今後のシラス漁への加入水準は前年を下回ると考えられます。また、他海域からのシラスの補給については、潮岬沖での黒潮の離岸傾向が継続することが予測されていることから、あまり望めない状況にあります。

以上のことから、本年秋季（9～10月）のシラス漁は、好調だった前年を下回る漁となるでしょう。

近年は、晩秋季の11月以降もシラスが漁獲されるため、平成21年より秋季シラスを前半（9～10月）と後半（11～12月）に分けて予測しています。

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬ごろに発表するとともに、後半の秋季シラス漁況予測については、今後の卵の出現、親魚の状況、海況、他県の漁況等から10月下旬頃にあらためて発表する予定にしておりますので、参考にしてください。